

## 恋

閉ざされた感情が旋律を呼び  
おずおずと僕を見上げる視線

差し出された指先が現在を捉え  
梢を撫でる風を深々と吸う

かすかな肌触りはたちまちのうちに  
僕を馥郁たる大気の香りで満たす

探るように歩む爪先はテンポを捉え難く  
先を歩く期待との距離は開くばかり

陽光を伝い落ちる滴は掌を導く  
孤独の連なる互いの森の奥深くへと

(1992.3.2)